



文学研究科東洋史学コース 東洋史学コース進学説明会

2025年5月22日(木) 12:30～

ハイフレックス開催

文学研究科東洋史学コース

——東アジアの新しい歴史像を探究する

東洋史学コースでは、アジア諸民族の歴史と文化の研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、**多元的な価値認識**を基礎とした世界史像の再構築をめざしている。

それは、ヨーロッパに発する**近代知の枠組みを再検討する知的営為**でもあり、新たな時代を担う者に要請される新しい世界観の構築でもある。

講義、あるいは研究指導を通し、**史料批判の訓練**を行うが、史料批判こそは、歴史的思考法の前提とすべき訓練でもある。

そのようにして体得した技術によって 各自の個別研究を深め、新しい世界を開いていくことをコースの教育方針としている。



東洋史学コースで学ぶこと、目標

■ 修士課程(2年間)

研究の基礎となる修士学位論文を作成する技術・知識の確立

■ 博士課程(3年間)

博士学位論文を執筆し、研究者として自立するための素養、及び個別論文の実績の積み重ね

東洋史学コース 指導教員紹介①

柳澤 明 (やなぎさわ あきら)

——清朝史

現在の中国東北部に起きた満洲族によって17世紀に打ち立てられた「清朝」は、漢族・モンゴル・チベットなど様々な民族・宗教の上に君臨する多元国家であり、東アジア国際関係の中心となる「帝国」であった。

前近代から近代へのはざまにあって重要な位置を占め続けたこの王朝のもつ「さまざまな顔」について、主に民族とその関係を切り口とし、日本・朝鮮半島からロシア・中央アジアに至るまでの広大な地域・言語を視座に含めた検討を行っている。



東洋史学コース 指導教員紹介②

飯山 知保 (いいやま ともやす) ——中国前近代史

フィールドワークでの碑刻（石碑とその碑文など）を主な資料として、10～17世紀の北中国（華北）の文字通りユーラシア大陸を制覇したモンゴル帝国の支配下で、13～14世紀の中国社会には、中央アジアの遊牧民、多種多様な人々が来住し、文化的に非常に多様な状況を形成した。

こうした変化が「中国社会」をいかに変容させ、また後世の「中国社会」を形成したのかを、「中国」「漢民族」といった概念を再構築しつつ考えています。



東洋史学コース 指導教員紹介③

植田 喜兵成智 (うえだ きへいなりちか) ——朝鮮史、東アジア史

新羅、高句麗、百濟、渤海などの王朝が活躍した朝鮮古代史を専攻しています。特に7世紀から10世紀の新羅と唐の関係、いわゆる朝鮮と中国の関係史をこれまで研究してきました。

最近では、古代の朝鮮半島で発生した「人の移動」から東アジア世界の交流史の解明にも取り組んでいます。そうした移動する人々の動きを記録した墓誌や石碑などの史料が中国や韓国・朝鮮、あるいは日本で発見されており、幅広いフィールドを意識した研究を心がけています。



東洋史学コース
指導教員紹介④
※サバティカル期間中

柿沼 陽平 (かきぬま ようへい)

——中国古代史

中国を中心とする古代東アジア世界の歴史（おもに9世紀以前）を専門としています。

近年はとくに、中国古代の人びとが具体的にどのような経済生活を営んでいたのかに注目し、伝世文献や出土文字資料（簡牘など）、さらには古銭・明器・画像資料などを駆使して、実態解明に取り組んでいます。



アジア史コース助手紹介 (2025年4月～)

谷川 春菜 (たにかわ はるな)
——モンゴル史

専門は清朝統治下(17世紀末～20世紀初頭)のハルハ・モンゴル史です。モンゴルの人々が書き残した帳簿や商人の通行記録、売買トラブルの裁判記録を読み解くことで、当時の商取引ネットワークの解明を進めています。そのほかに、モンゴル帝国が舞台のマンガ『天幕のジャードゥーガル』の解説コラム連載も担当しています。

東洋史学コースの授業やゼミに関して相談ごとがあれば、ぜひお気軽にお声がけください。



東洋史学コース在籍者数(2025年度時点)

➡ 修士課程1年 3人

➡ 修士課程2年 2人

➡ 計 5人

➡ 博士課程1年 0人

➡ 博士課程2年 2人

➡ 博士課程3年 9人

➡ 博士課程4年 3人

➡ 計 14人

➡ 計 19人

東洋史学コース 修士課程の主な行事予定

対象	時期	行事
1年生	3月中旬	コース別ガイダンス
1年生	5月上旬	アジア史エクスカーション
2年生	5月頃	修士論文計画書の提出
2年生	10月上旬	修士論文題目の提出
2年生	1月上旬	修士論文提出
2年生	1月下旬	修士論文口述試験
2年生	3月25日	卒業式

修士課程の カリキュラム (2025年度)

計
32
単位

自身の指導教員の演習: 8単位 (年間4単位×2年間)

- ・ 指導教員の演習については、自動登録されます。

指導教員の特論など、コース設置科目 (演習・特論)

- ・ 指導教員の特論 (2年間で8単位) + 他の先生の演習・特論など。

語学の講義 (1言語または2言語、計4単位)

※その他、他コース・他研究科及び交換協定のある他大の授業など

- ・ 詳細は要項参照。
- ・ なお、単位に関係ない「聴講」もよく行われている。

研究指導 (必修・単位には含まれない)

- ・ 通常、指導教員の演習と同じ時間で設定されているので、実際の指導時間については各先生に確認してください。

計
14
単位
必須

- ・ 履修する科目は、必ず指導教員の承認を得てから登録してください。
- ・ 履修漏れのないように!
- ・ 現実的な時間割かどうか、登録前に先輩などに確認してもらうことを推奨します。

単位について

▶ 修士課程での単位取得:

コース設置授業にて14単位以上、外国語4単位、それら含め**32単位以上**取得。

(他コース、他研究科、交換協定のある他大授業による単位取得も可)

※詳細は研究科要項を参照。

※**教職の専修免許の取得を必要とする場合**:コース設置科目(演習・特論)24単位が必要となるため、コース設置科目以外(共通科目・語学など)をとりすぎないように注意

▶ 博士課程での単位取得: なし

指導教員のゼミなどについても、自動登録される「研究指導」以外はすべて聴講扱いとなる。

東洋史学コース カリキュラム(2025年度)

【表1】特論・演習

▲他学部教員・非常勤講師など

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学特論1、2	特論	月3	前・後	2・2	植田 喜兵成智
東洋史学演習1-1、1-2	演習	月4	前・後	2・2	植田 喜兵成智
東洋史学特論3、4	特論	金4	前・後	2・2	箕曲在弘・▲森和
東洋史学演習2-1、2-2	演習	-	前・後	2・2	※休講
東洋史学特論5、6	特論	木3	前・後	2・2	▲鄒 笛
東洋史学演習3-1、3-2	演習	木4	前・後	2・2	飯山 知保
東洋史学特論11、12	特論	火3	前・後	2・2	柳澤 明
東洋史学演習6-1、6-2	演習	火4	前・後	2・2	柳澤 明

東洋史学コース カリキュラム (2025年度)

【表2】研究指導

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学研究指導2-1、2-2	修士	-	前・後	*	※休講
東洋史学研究指導2-1、2-2	博士	-	前・後	*	柿沼 陽平
東洋史学研究指導3-1、3-2	修士	木4	前・後	*	飯山 知保
東洋史学研究指導3-1、3-2	博士	木5	前・後	*	飯山 知保
東洋史学研究指導6-1、6-2	修士	火4	前・後	*	柳澤 明
東洋史学研究指導6-1、6-2	博士	火5	前・後	*	柳澤 明

「研究倫理教育」について

- 修士論文および博士学位請求論文の提出要件として、**日本学術振興会「eL CoRE」**（単位非算入、オンデマンド方式）の受講が義務付けられている。
- 原則として、修士課程と博士後期課程の1年次中に受講。在学生（及び、退学者も含めた課程博士論文の申請希望者）は、学位論文の申請までに当該科目を受講し、所定のテストに合格する必要がある（2025年度現在）。
- 詳細は入学後にMy Wasedaやメール等で告知されるので、確認の上受講すること。

院生研究会について

- 参加者: 東洋史学コース在籍の大学院生 (修士課程～博士後期課程3年生)
- 時 間: 毎週水曜5限 (17:00-18:30頃まで)
- 目 的: 専門・ゼミの枠を越えた院生同士の交流、相互研鑽
- 内 容: 毎回1名の研究発表25分+他の院生との質疑応答
発表担当は原則年1回

院生研究会では、普段のゼミとは異なり他分野の学生へ向けて発表するため、自己の研究を通時代・地域横断的に意義づけ直すことができます。

そのほか、先輩たちの胸を借り、普段触れることのない他分野の知識を得る、言わば研究上のブレインストーミングをする機会でもありますので、可能な限り参加してください。

東洋史懇話会・早稲田大学史学会について

- **東洋史懇話会**: 早稲田大学東洋史学コースの教員・大学院生とその出身者有志により構成される学術団体です。東洋史学コースの大学院生は全員この懇話会の会員として、その運営の補助を行うことになります。
主な活動は、**年1回行われる大会**（3月第3週土曜）の運営及び**会誌『史滴』**の刊行です。
- **早稲田大学史学会**: 早稲田大学の4つの歴史学系コース（東洋史、西洋史、日本史、考古学）により構成される学術団体です。
こちら、**年1回行われる大会**（10月初旬の土曜）の「東洋史部会」の設営および参加に際し、補助をお願いすることになります。

アジア史エクスカーショ

対象：学部2年生と新大学院生

日時：例年、5月のGW明けの土曜日

内容：博物館・美術館見学、大学でのセミナー

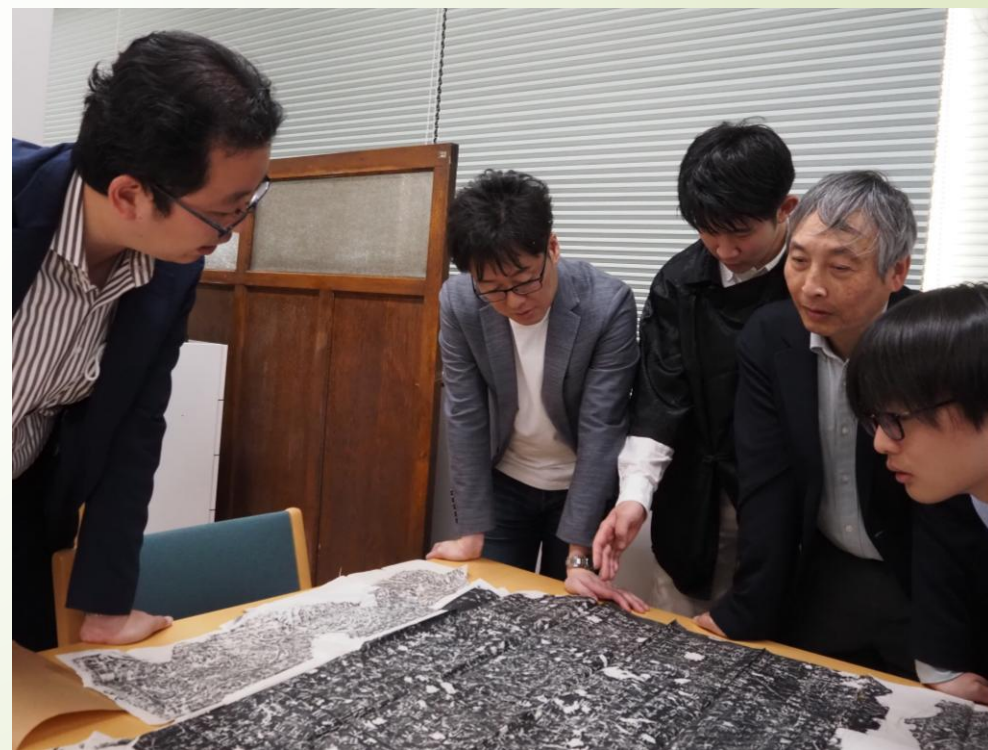
目的：学生・院生・コース教員の親睦を深め、知見を広める

【参考：過去の見学先】

2025年度：在日韓人歴史資料館、横浜ユーラシア文化館

2024年度：東京国立博物館東洋館・東京文化財研究所

2023年度：学習院大学東洋文化研究所





修士論文題目（2022～2024年度）

- 唐代藩鎮体制下における仏教政策について
- 沙陀国家論再考
- 五胡十六国・北朝時代における学校の基礎的考察
- 清代「熱河地区」における行政の変遷と住民の再編
- 両漢交替期における爵制
- 隋唐代を中心とした諸史料における波斯とその人々の移動
- 李鴻章と清朝の軍事的近代化
- 五胡十六国・東晋～南北朝時代における仏教と国家
- 西周の殷遺民に対する支配について
- 明代における巡捕組織
- 金石文を用いた氏族楊氏についての研究
- 蒙疆政権の対外貿易
- 漢代の救荒政策と官吏

博士論文題目（近数年）

- 九世紀前半の東アジアにおける国際文書の研究
- 中国古代における刑徳理論の展開
- 苗族における伝統社会の変遷とアイデンティティ—貴州高坡苗族を中心に—
- 新羅・唐関係と百済・高句麗遺民
- 清代黒龍江水師營の成立と展開
- 五胡十六国時代における交通・交易と北アジア世界
- オスマン陸軍と「匪賊討伐」（1903-1908）
- 「文治国家」の存続：南宋初期の軍事過程（1127-1141年）
- 高麗の国家祭祀と多元的世界観に関する研究 — 円丘祀・八閤会を中心に—

自主ゼミ・勉強会について

- 東洋史学コースでは、院生による自主的なゼミが複数開かれています。
- これらのゼミは授業を補完し、また学術交流の場ともなるものです。
- 参加・見学を歓迎していますので、興味があれば助手や主催者にご連絡ください。

- 有志を募っての、新しい自主ゼミ開催也大歓迎です！

※2025年度開催の勉強会

漢文読書会、朝鮮史料・朝鮮語自主ゼミ、満洲語勉強会、東洋史課外自由読書会

留学について

- 研究に必要な語学の習得、あるいは実地にて研究を行うため、大学院生のあいだに留学する人は多数います。
- 奨学金や生活のアドバイスなど、先輩からの**手厚いサポート**を得ることができるでしょう。
- 留学先は、中国各地（北京、西安、杭州etc.）、韓国、モンゴル、ロシア、ベトナムなどから、イギリス、フランス、アメリカなど多岐にわたります。



近年の就職先

- 修士課程については、教員（公立、私立）を中心に、出版社等の一般企業、公務員などに就職する人もいます。
- 博士後期課程については、研究職及び教育関係に就く人が多いです。

- ▶ アジア史・東洋史学コースHP

<https://dpt-bun-tousi.w.waseda.jp/>

- ▶ 公式Twitter
@waseda_asia



- 履修について不明点や質問がある場合は、
コース室までお問い合わせください。

場所:39号館4階2421号室

メール:

tanikawa.haruna@aoni.waseda.jp

(助手:谷川春菜)

